かいはつ 18号

岡崎市特殊教育
推進協議会

昭和63年3月11日発行

(題字　大樹寺小6年)

宿泊訓練・交流会

三浦君のあいさつは〝日本一〟

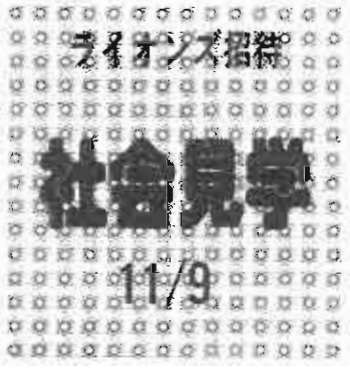
矢作南小学校長
古橋睦典

本校の三年生に三浦清仁君という子がいる。先天性の小児麻ひで、両足がいくらか不自由である。しかし、大変明るく、しかも頑張り屋で毎週火曜日と金曜日に行っている朝のかけ足も、ほかの子とコースこそ違うが一生懸命に走り続けている。去る一月に実施した校外を走る耐寒かけ足も一日も休まず完走した。走りっぷりはたどたどしいが、その精一杯の姿に私は心を打たれた。

こうした頑張りぶりもさることながら、私は、三浦君のあいさつは日本一だと思っている。毎朝、友だちに手を引かれての登校時、廊下や校庭で行き会った時の三浦君は、いつでもほんとうに、にこにこしていて、しかも大きな声で「校長先生、おはようございます。」と言ってくれる。そのあいさつは、三浦君が毎日、明るく元気に生き続けている姿を象徴しているし、心から、出会った喜びを表わしている様子に疑う余地がない。

宝飯郡の小坂井中学校長を最後に退職され、今は講演活動を続けてみえる古布村二郎先生は、そのご著書の中で、「あいさつの上手下手」について述べてみえる。要約すると、あいさつ上手とは、一、あいさつをしている。二、相手より先にあいさつしようと心がけている。三、「○○さん、おはようございます。」というように相手の名前や職名を呼んでからあいさつをしようと心がけている。四、あいさつの前や後に別の言葉を入れると最高のあいさつになる。

四番目は、子どもには要求できないと思うが、私が三浦君のあいさつにいつも感動し、まさしく日本一と思うのは、そのあいさつが私に、人間はどう生きるべきかということまで教えてくれていると思えるからである。



十一月九日、岡崎ライオンズクラブ招待社会見学が行われました。児童、教師、保護者含め、二百二十名が参加し、愛知子どもの国と、蒲郡水族館へ行きました。

好天気に恵まれ、芝生の上で走り回ったことや、たくさんの美しい魚を見たことは、忘れることができないでしょう。お礼の絵や作文も、大変すばらしい作品でした。

▲六名小３年　かめ

▲大門小５年　バスの中で

▲岩津小１年　べんとう

愛知子どもの国と水族館へ行ったこと

美合小六年

ぼくたちはライオンズクラブのおじさんにごしょうたいされて子どもの国と水族館に行きました。子どもの国ではあり地ごくで遊んで人がよってきてあぶない気がしました。しばふの広ばであそびました。ひるごはんをたべました。あつまってじゅんばんに写真をとりました。それからバスにのって竹島の水族館に行きました。そこでカブトガニやウーパールーパーを見ました。ふつうの食べるカニもいました。イルカもいました。とても楽しかったです。ありがとうございました。

子どもを出迎えて

竜美丘小　父兄

バスが着くと、子供たちは、にこにこした顔で降りてきました。

おみやげの品々をかかえながら断片的ではありますが、家にたどり着くまでいろいろと話してくれました。

「バスで、歌ったよ。」「海が見えた。」「車（トロッコ）にのったよ。」「おべんとう、食べた。」「魚がいっぱい。」「カメもおった。」などと、矢つぎばやに、楽しそうに語ってくれました。

子供のことばを聞き「よかったね。」「楽しかったね。」と合づちを打ちながら、今日一日、楽しそうにとび回った子供の姿を頭に浮べて見ました。

もうすぐ中学生

岡崎小　六年

もうすぐ小学校をそつぎょうするけど、まだまだ岡崎小学校にいたいなあと思います。六年の間、一しょだったともだちと、わかれるかもしれないと思うと、かなしくなります。

おとうさんやおかあさん、おにいさんたちと話して、中学でも、とくしゅ学級にいくようにしました。

中学校に行って、ともだちが一ぱいできるかな、と心配しています。ともだちができるように、わたしから話しかけていって、ともだちになってあそびたいと思っています。

中学校に行っても、わからないところは、先生やともだちに聞いて、一しょうけんめいやりたいと思っています。

卒業に向けて

岩津中　三年

ぼくは、担任の先生にいろんなことを教えてもらえてほんとうにかんしゃをしています。そして、三月ぐらいに、卒業です。ぼくは、卒業してから、岩津化成㈱で働いていきたいと思います。一生懸命に仕事をしたいです。給料は九万いくらです。ぼくは、二万円だけ家にふりこんで、四万円は貯金をするつもりです。岩津化成には、自転車でかよいます。ついたらあいさつをして、なにをやるかきいて、教えてもらいながら、仕事をします。一生懸命にぼくは、努力します。もしも、病気になったらかならず電話して、休むことです。病気がなおったらすぐに仕事にでて、ぼくは一日、一生懸命にやって、すごしていきたいです。最後は、きちんとかたづけて家に帰ろうと思います。そのつぎちゃんと朝起きをして、顔を洗ってごはんをたべて、はもみがいて仕事に行き、ちゃんとあいさつをしてから働きたいです。そして、ちゃんと弟と妹のめんどうもみないとぼくの責任です。日曜日はちゃんと弟と妹におこずかいをやらないとぼくの責任です。そして、岩津化成でしっかりやりたいです。

中学校自主参加

宿泊訓練

11/26・27

十一月二十六・七日に働く者の山の家において、岩津・矢作北・甲山・美川中による宿泊訓練が実施されました。身辺処理能力を高めることを目標とし、食事づくり・入浴・就寝準備等に取り組みました。また、他校の生徒と直接触れあうことができ、生徒達の成長にとって、この二日間の経験は大変意義深いものだったと思います。

▲たのしい夕食

▲みんなでおふろに

▲おにぎりづくり

楽しかった宿泊訓練

矢北中　二年

いよいよ宿泊訓練が始まりました。東岡崎から岩津中の子といっしょに、電車に乗って行きました。

まずバザーをしました。ぼくたちは、かんとうに屋さんをやりました。みんなで交たいして買い物をしました。甲山中のたこやきを買いました。とてもおいしかったです。美川中のポップコーンや岩津中の鬼まんじゅうも食べました。ぼくたちの店のかんとうにもお客さんが買ってくれて、全部売れました。とてもうれしかったです。

夕食のしたくが始まりました。ぼくたちは、岩津中の子といっしょに買い物に行きました。みんなで食事の材料を買いました。ぼくたちはハンバーグカレーを作ることにしました。作るのに時間がかかりたいへんでした。ぼくはジャガイモの皮をむくとき、ちょっとしっぱいしてしまいました。そしたら美川中のM君が手伝ってくれました。うれしかったです。

夜になって交流会をしました。ぼくたちは「ちびくろサンボ」のげきをやりました。まちがえたこともあったけどじょうずにできたと思います。甲山中や美川中の歌も聞きました。岩津中のベルのえんそうもすばらしかったです。

食事のしたくや、ふとんの準備やそうじなどしてつかれたけど、友だちがいっぱいできて、とても楽しかったです。

研修報告

アメリカの障害児教育施設を見学して

矢東小　加藤敬子

成田空港で初めて出会う八名での研修旅行。正直な気持ち、期待と不安が半々の出発だった。十六時間にも及ぶ飛行時間にちょっぴり椅子に座らされ続ける子供の気持ちを味わいながらサンフランシスコ～ロサンゼルス～ニューヨークの十二日間の旅が始まった。

心に残った施設は、学校とトレーニングセンターを兼ねたモーガンセンター・障害児対象のサマースクール。ジュリア・アン・シンガーセンターなどだった。

特に、インターンの人たちを含むミーティングに参加できたことは本当によい経験になった。また誇りを持って、仕事に取り組むアメリカの女性たちの姿は素敵だった。日本とアメリカでは制度や障害児教育に対する考え方など違う面も多い。しかしこの米国旅行は特殊教育を続けていく糧になったように思う。

全国の仲間とともに

広幡小　山田哲也

昨年九月二日から十一月十七日までの間、国立特殊教育総合研究所へ研修に行かせていただきました。特総研は、神奈川県三浦半島の先端近くにあり、海に臨んだ自然に恵まれたところです。ここに全国から六十三名の若者（？）が集まって、二ヶ月半の宿舎生活を送ったわけで、学生寮のような雰囲気がありました。

研修は、講義を中心に、施設見学、学校訪問、研究協議などがありましたが、何といっても多くの研修生との交流が意義深かったと思います。全国に、私たちと同じような仲間がいて、同じような子どもたちを相手にがんばっているのだ、と実感としてわかり、視野が拡がった思いでした。孤立しがちな私たちにとって、仲間との交流がいかに重要であるかを、改めて感じさせられた研修でした。

子どもに寄りそって

岡崎市教育委員会指導主事
青木　宏氏

情緒に障害を持っているA君は、人とのかかわりや、ウサギなどの動物へのかかわりはほとんどみられません。むしろ、逃げ出してしまうということの方があっている子どもでした。

A君にとって、ウサギなどの動物は得体の分からない怖いものに見えるのでしょう。それはウサギが、予測できない行動をするからです。

A君は放課になると廊下に設置してある大鏡の前に立ち、鏡に映っているA君の姿に話しかけています。（鏡に映っているのが自分自身であることが分かっているのかは判断できませんが）時には、笑ったり、手を振ったりもし、数分、鏡に映る自分の姿とかかわっています。友達や教師に話しかけることをまずしないA君が、この時だけは話しかけるのです。

鏡の中の人物は、ウサギなどと異なり、A君と同じ行動を変わりなくしてくれます。A君にとっては予測できる行動なのです。

A君を取り巻く友達や教師は、その日の健康状態、環境の違いから、表情や行動が変化します。A君はこの変化に対応しきれなくなり、予測できないものとなってしまうのです。そして、得体の分からない、不安を感じさせるものになってしまうのです。

このA君とラポートを取ることはなかなか難しいものです。A君に積極的に近づいていくと、奇妙なものが来たと逆に逃げられてしまうことすらあるのです。

A君の担任の先生は、これらのことをおさえて、次のようにA君とかかわったのです。

鏡に映っているA君に担任がなることから始めたのです。A君が好んでする遊びを、A君に寄りそって担任が同じように遊ぶのです。これを根気強く、A君の心の動きに合わせるように、毎日おこなったのです。そうするうちに、担任がA君に砂をかけるなどのかかわりをすると、A君が担任のしたように、担任の手に砂をかけるなどのかかわりをみせたのです。A君と担任とのかかわりの芽が出たのです。それ以来、A君は担任の行動を模倣しながら、人とのかかわり方、物への対応の仕方を学んでいきました。今では、ダンボール会社に勤めるほどにまで成長しました。

親、教師は子どもの鏡でありたいと言われますが、子どもの心に共鳴するように共に生活し、教師自身が範として指導していくことの大切さを教えてくれる実例であります。子どものあこがれとする教師像として、一緒に考えて、一緒に行動してくれる先生があります。

共に学ぶ姿こそ、尊い教師の姿ではないでしょうか。

学級スナップ
力を合わせたカレンダー作り

六ツ美南部小

校長室にカレンダーが飾ってあります。保健室にも、教室にも、そして、子どもたちの家の床の間にも同じ紙版画のカレンダーが飾ってあります。

昨年末、四人の子どもたちは、学級訓の「なかよし」の通り、力を合わせて一生懸命にカレンダーを作りました。紙を切ったり、貼ったりするのに苦労しましたが、みんな最後までしっかりがんばりました。

このカレンダーのように、一日一日の積み重ねを大切にしていきたいと思います

進路指導部だより

卒業生の追跡調査を行って

昭和六一年卒業生進路状況

- 就職者　12名
- 養護学校高等部　6名
- 春日台訓練校他　3名
- 専修学校　2名

右の生徒の卒業後一年間の追跡調査を全市の先生方のご協力によってまとめることができた。

一般に中卒者の就職が困難になっているのが実情で、その定着率の低さも事実である。右の生徒に限っては五名の者が転職していた。調査結果から、転職はしないまでも、雇用主、親、教師の陰での指導、相談と、大変な気配りで離職しなくて済んでいる場合が多いことに驚くとともに、まわりの人たちのご厚意に助けられて、なんとか社会自立に向っているというのが実情であることがよく理解できた。

これらの生徒にとって就職したことが社会人としての第一歩、周りの人たちで温かく見守っていくことが何よりも重要である。